鹿児島の魅力的な企業で生き生きと働く方々の活躍の様子をご紹介します。

ひとが輝く鹿児島

鹿児島で生き生きと働こう！

「世界に日本茶の素晴らしさを広めたい」外国籍ならではの強みを生かして海外展開に挑む！

北欧にもコーヒーを飲みながら家族や仲間との会話を楽しむ、いわゆる「お茶する」文化があるとか。「日本人と気質が似ている」と話すアンドレさん

多角的な視点で営業を展開。パッケージデザインから提案することもある

人の五感を用いて品質を評価する、官能審査をしている様子

鹿児島製茶株式会社
営業部国際営業課
アンドレ・アンデショーン さん（27）

スウェーデン出身、幼少期から日本の漫画やアニメに親しみ、中学では柔道、大学では、英語のほかに日本語を学ぶ。2015年に、高知大に留学。2016年鹿児島市で開催された企業交流会への参加をきっかけに、2017年同社に入社。

語学力やグローバルな感覚を生かせる職場

「お茶の美老園」の名前で知られる鹿児島製茶。代表銘茶である「さつまほまれ」は、1962年に商標登録されて以降、現代に至るまで幅広い層に愛飲され続けています。同社は伝統を守りつつも、時代のニーズに合わせたお茶作りを目指し、近年は海外への展開にも力を入れています。

国外へのお茶の輸出を担う国際営業課で、その語学力やグローバルな感覚を生かし活躍しているのがアンドレ・アンデショーンさん。英語圏の海外取引において中心的な役割を担っています。同社に入社した理由について「海外でも仕事ができるというところが決め手になりました」と流ちょうな日本語で話します。現在の部署は、アンドレさんを含めて4人。昨年からは、アジア圏への営業強化に向けて、台湾人の女性も入社しました。「入社当時は漢字の多い書類に戸惑ったこともありましたが、上司や周りの温かなサポートに助けられました」とアンドレさんは話します。

将来的には海外取引の現場でリードする存在に

入社当初は、外国の既存の顧客との取引を担当していたアンドレさんですが、今では新規顧客の開拓のほか、世界に向けての商品開発なども任されています。また、これまでシアトルやラスベガスなどアメリカを中心としたPR活動なども行ってきました。アンドレさんの上司は「行動力も発案力もあり、彼の活躍は自分たちにとっても良い刺激。将来的には海外の取引の現場でみんなを引っ張ってもらいたい」と全幅の信頼を寄せています。

「海外でもっと日本茶の素晴らしさを広めたい」その思いを胸に、アンドレさんは今日も会社の第一線で活躍しています。

鹿児島製茶株式会社
錦江流通センター
鹿児島市錦江町6-26
☎099-226-0051

ホームページ